

## 情報学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		80 ※－ (80)	284 ※5 (343)	284 ※5 (343)	97 ※1 (95)	92 ※1 (88)	
	編入学・再入学		－ ※－ (－)	3 ※－ (－)	3 ※－ (－)	2 ※－ (－)	2 ※－ (－)	
学生の進路 (人)	卒業者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	85 ※1 (95)	13 ※－ (32)	11 ※－ (30)	－ ※－ (1)	2 ※－ (1)	－ ※－ (－)	66 ※－ (58)	6 ※1 (5)

・ ( ) は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 情報学類の活動

#### [教育]

情報学類では、情報の表現やモデル化、ハードウェアやネットワークの技術、知能やメディア処理に関する技術などを学び、単に学問や技術を修めるだけでなく、それらを多様な問題に広く適用し、解決してゆくための思考力、洞察力を持つ人材を育てることを目標としている。

情報学類のカリキュラム全体に関しては、JABEEによるア krediyteshon についての検討を行った。平成14年度以来「45単位上限制」が導入されているが、これに伴い、学生に「45単位上限制」の趣旨を周知するとともに、教官の側で「責任ある授業運営」および「厳格な成績評価」を行うことが課題となっている。「成績評価の厳格化と授業改善」のための方策として、成績評価の厳格化の具体案を作成した。内容は、教員の授業改善を行なうことに連動させて、成績の相対評価（GPA化：Grade Point Average）を進めるものとした。

講義科目としては、一年次でのコンピュータリテラシ、プログラミング入門などのコンピュータ入門科目の充実をはかり、二年次の科目としてシミュレーション物理を新設した。また、三年次の科目としてインタラクティブCGを新設した。主体的な学習態度と創造性を育成するため、情報特別演習などの個人発想型科目を学生が選択するように推奨した。また技術英語のeラーニング化の検討および実施の準備を行い、平成16年度から実施することとした。

#### [学生生活]

クラス連絡会は、平成15年度は2回開催され、学生と学類長、学生担当教官、クラス担任との間で、カリキュラム、新入生歓迎行事、宿舎関係、交通安全等に関する意見交換が十分に行われた。特に、学生より宿舎環境の改善の要望が再三提出され、大学当局へその要望を伝達した。

学類Webページについて、学内の教員向け、学生向けの情報を充実させ、学類Webページのポータル化を目指した。学務委員会では全ての学生・教官との連絡と情報収集・検索を電子化し、庶務の大幅な簡素化と合理化を行った。卒論に関しても電子化し閲覧を便利に行えるようなシステムを構築した。

また、進路指導委員会では求人情報等のWeb化を推進すると共に、昨年度に引き続き大学院への進学を含めた進路指導を実施した。その結果、平成15年度は昨年度を大幅に上回る卒業生の75%以上の学生が大学院に進学した。

### 2 教員の教育業績評価の状況

今年も学生への授業アンケートを実施した。講義を担当する教官に対しては、授業アンケートの実施状況調査と基礎科目担当意向調査を実施し、教官の講義の意識を高めることを狙うとともに、基礎科目の講義負担の均等化に向けて基礎的なデータを収集した。

### 3 自己評価と課題

開かれた情報学類を目指し、広報面でも社会に向けて各種の情報発信を積極的に進めることが重要になっている。高校への出張講義を平成15年度には計8回実施した。また受験生のための大学説明会を例年通り7月に開催する他に、3月の東京地区での説明会も昨年同様に開催した。

また、平成16年度入試から高等専門学校の卒業生等が受験可能な3年次への編入学試験を、他学類と同様に7月期に実施した。